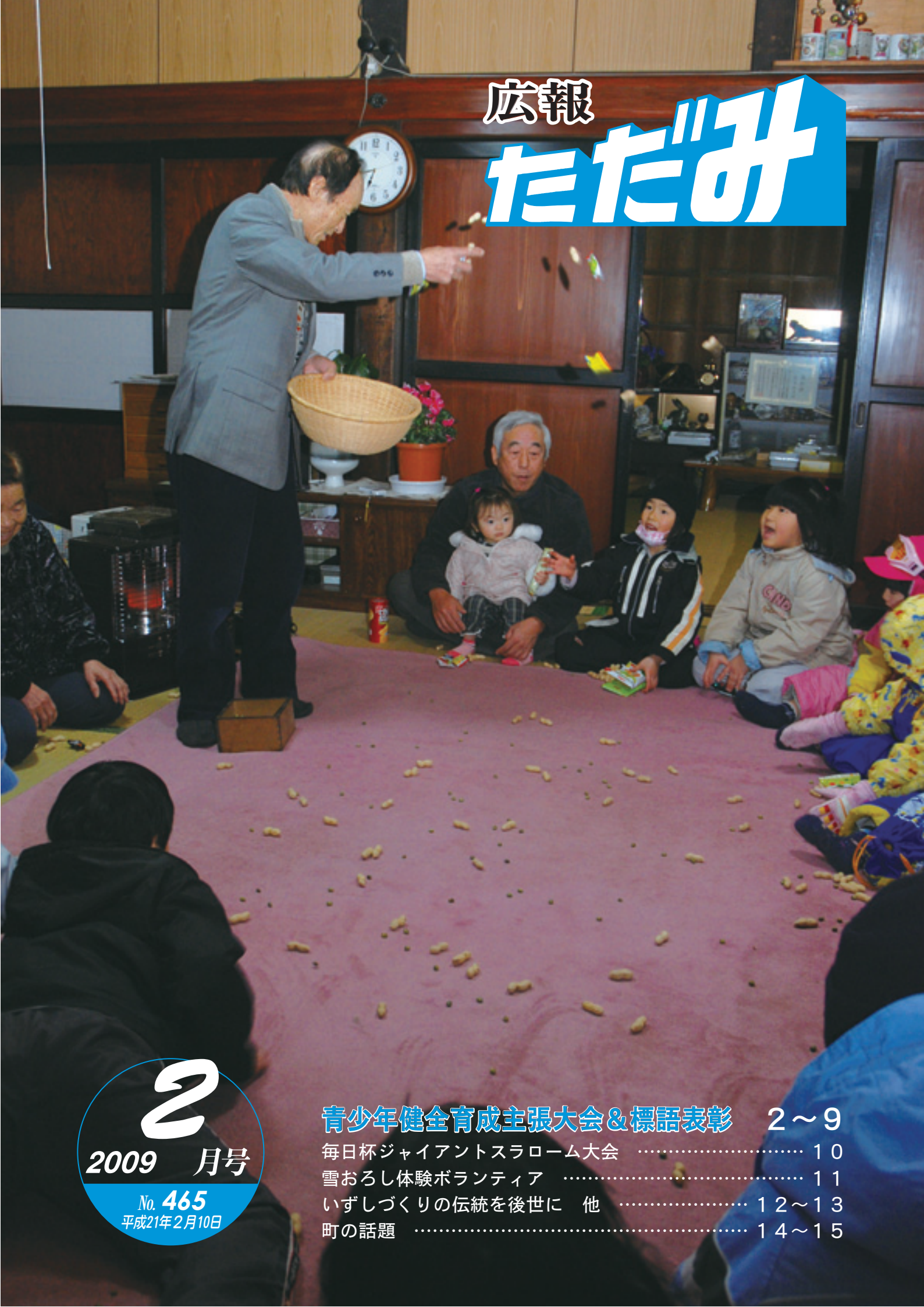


広報

ただみ



2

2009 月号

No. 465
平成21年2月10日

青少年健全育成主張大会&標語表彰 2~9

毎日杯ジャイアントスラローム大会	10
雪おろし体験ボランティア	11
いずしづくりの伝統を後世に 他	12~13
町の話	14~15

心に届け 私の言葉

青少年主張大会・標語表彰

子どもたちの健全な育成を願う第23回只見町青少年健全育成主張大会・健全育成標語表彰式が、1月24日只見地区センターで開かれ、聴衆の心を豊かにしてくれました。



主張大会では、小学生3人、中学生3人、高校生2人が、自分の体験や考えを発表すると、会場に集まった約120人の聴衆から大きな拍手が送られました。

標語表彰式では、町青少年健全育成町民会議会長の目黒吉久町長が、入賞者一人ひとりに賞状と記念品を贈りました。標語には町内から339点の応募がありました。

今月号では、主張大会で発表された内容と、入賞標語を掲載します。青少年の主張に耳を傾け、標語に触れていただき、青少年の健全育成にご理解ご協力をお願いします。

なお、健全育成事業は、町民のみなさまの協賛金により運営されています。

標語入賞作品 (敬称略)

【小学生の部】

◎優秀賞

「はなそうよ 今日の出来事 食卓で」
明和小6年 馬場 光弘

▽佳作

「ごめんねと 言える勇気は 大切だ」
只見小5年 島谷 拓実
「忘れるな 地球のさけび 聞く心」
朝日小5年 渡部 早紀
「あいさつは 地域を結ぶ 小さな芽」
明和小5年 大竹 羽未
「良い言葉 使えばみんな 良い気持ち」
明和小5年 一条 英昭

【中学生の部】

◎優秀賞 該当なし

▽佳作

「ありがとう 感謝の気持ちを 忘れずに」
只見中1年 長谷川将樹
「町中が 笑顔であふれる 只見町」
只見中1年 鈴木ひかり
「おはようで 未来がひらく 只見町」
只見中2年 一条みずほ

【高校生の部】

◎優秀賞

「ありがとう」 ごめんねよりも
この言葉」
只見高1年 山内 麻椰

▽佳作

「あいさつで 広がる世界 地域の輪」
只見高3年 五十嵐志乃
「いつまでも 変わらぬ人の 温かさ」
只見高3年 馬場 美里
「美しい 自然とともに 歩む町」
只見高3年 鈴木加奈子

【一般の部】

◎優秀賞

「教えよう 強さ優しさ 厳しさを」
長浜 吉津 禮子

▽佳作

「人の道 わが子に示せ 一步から」
蒲生 馬場 新介
「ありがとう 五文字にこもる 温かさ」
福井 渡部ユキ子
「あたたかく 見守り続ける 地域の目」
蒲生 五十嵐八恵



なぜ ニートを選ぶのか

只見小学校 6年

すず
鈴

き
木

あい
愛さん

「自分は、なんてダメ人間だろう。」
「自分は生きていく意味がない。」と……。
これは、先日、見ていたテレビで、
若い男の人が、ぐったりと肩を落とし、
落ち込んで何もできずに、部屋にこもっ
て話していた言葉です。

近年になって、フリーターよりさら
に深刻な存在として、ニートが注目さ
れています。フリーターとは異なり、
就職する意志がなく職業につくための
訓練もしていない若者が大変多いとい
う現実、私は、心が痛みました。夢
がたくさんつまっている、希望を現実

に変えることができる、若いパワーを
もっているはずなのに……。考えるこ
とができる、動くことができるパワー
をもっているはずなのに……。なぜ、
ニートになってしまったのか。

働ける若者が、なぜ仕事を探さない
のか。働こうとしないのか、生きてい
かなければいけないのに。家が裕福な
家庭なら大丈夫でしょうが、定期的な
収入がないという状態では、精神的に
もつらいだろうし、生きていくための
衣食住に困るといふ事態が発生してし
まうのではないかと心配です。

生きるために働くという、夢も何
もないような感じがしますが、生きて
いくためには、最低限のお金が必要だ
と思います。ニートの生活を考えると、
ぜいたくで、のん気なことをしている
などと思う人が多いかも知れません。し
かし、私は、ニート生活を送っている
若者が、精神的にとってもつらいのは
ないかと思いました。
「自分が、本当にしたいことは何なの
か」

と『自分探し』をしているうちに、
「この先どうやって生きていけば良い
のだろうか」

と、悩み苦しんでいるんじゃないかと
思うのです。だから、私は、脱ニート
を応援していきたいと思います。何か
物事をやろうとすることを応援するた
めに、どうしたら良いのかということ
を考えていきたいと思っています。

脱ニート！ 当たり前ですが、何も
やらないでいる人には、成功はありま

せん。目標を達成するために、目標を
書きとめる人のほうが、そうしない人
よりも目標達成率が高いそうです。こ
れは、やってみる価値あり！ 目標が
明確になるし、計画も立てやすい……。
目標の立て方は、大きな夢や目標を持
ち、これを達成するために、自分がで
きる範囲の目標を立て、毎日、少しづ
つ実行していく……。無理な目標を立て
ることはいけないと思います。目標を
達成するには、時間がかかる場合が多
いです。いきなり大きくとび出すので
はなく、ゆっくり歩きながらやってい
くことも肝心になってくるでしょう。
目標達成や、成功後には、忍耐力もつ
きますし何よりも自分に対する信頼、
自信を得ることができるとはいいか
と思います。

考え方としては、自分が他人の考え
方を変えるのは難しいように、他人か
らいろいろ言われて、自分を変えるとい
うのは、難しい気がします。自分か
ら自分の考え方を変える方がはるかに、
簡単ではないか。

「何かを変えたい、未来を変えたいと
思いながらも「それは、自分にはでき
ないし」とニートの人は口をそろえて
言います。「それは自分にはできない。
(けど、やってみよう！)」

などと、真意に思っている場合もある
んじゃないか。やってみようという気持
ちが出てくるのではないかと思います。
自分の考えや言葉に注意することも大
切なこと、脱ニートに近づくことだと
思っています。

まずは行動を……。行動を起こすこ
とです。「考えて行動すること」と
「行動して考えること」がありますが、
考えてから行動すると、考えすぎて、
一歩目が出ない場合があるのではない
でしょうか。まずは、行動を起こし、
「やるか、やめるか」などの選択肢が
増えた後、気持ちの整理のために考え
た方がいいのではないかと、私は思い
ます。自分は、どんなことに向いてい
るのか？ それを見つけてため、まず
は、いろんな情報を持って、いろいろ
知ることによって選択肢を増やすこと。
そして、その選択肢の中から、自分に
合いそうなもの、興味が少しでもあり
そうなものからチャレンジしてほしい
です。

自分のことを、なんてダメ人間なん
だ、生きていく意味がないなんて、絶
対に思ってしまうし、もっと自分
を大切に、夢を持って、目標を持って
生きてほしいです。私は、将来、生け
花の先生を目指しています。小さい頃
から、よく花をつんでかざったり、そ
れを見て楽しんでました。生
け花の先生はいろんな花で、いろんな
風に表現して、人の心や、建物の中を
ぱあーっと明るくできる、まほうの職
業です。ニートで苦しむ若者のみなさ
んも、私ぐらいの頃は、こんなすてき
な夢を持っていませんでしたか。夢を
持ち、実現するために、どんどん積極
的に行動し、現代社会に勝っていきま
しょう。



朝日小学校6年

増田奈歩さん

あたりまえじゃない

あたりまえのこと

とつ然ですが、みなさん、ちょっと息を止めてみてください。息を止めると苦しいですよ。わたしたちは、いつも呼吸をしています。呼吸が生きるために、どんなに大切か、呼吸ができなくなったらどうなるのかなんて、考えもしません。呼吸をすることは、あたりまえのことだと思っています。

六年生になった春、遊んでいたわたしは、急に足が痛くなりました。少し休むと治まったけど気になって、次の日、病院に行きました。すると、お医者さんから、こ間接の骨が少し変わった形で成長していて、それがこすれて痛くなるのだろうと言われました。そして、しばらく激しい運動はしない方がいいということも言われました。

それからは、朝のマラソンや体育の授業はほとんどできず、運動会の練習にも少ししか参加できませんでした。スポーツのバレーボールも、足を多く使うので、パスの練習を少しやるくらいで、見学することが多くなりました。運動は得意じゃないけれど、決ま

らいではありませんでした。(六年生になって、運動会もバレーボールも、精一杯がんばっていたいい思い出を作ろうと、はりきっていたのに、どうして急に、できなくなっちゃうんだろう。) そう思うと、くやしくてさびしくて、(動けるときに、もっともってやっておけばよかったなあ)と、後かいたのです。

それでも、両親や先生と相談しながら、できそうな運動をやって、運動会にも参加できました。いくつも病院をまわって、運動をしなくても、治り方に大きな違いはないということ、痛くなったら休むという条件つきですが、秋の終わりに、元通り、運動することができるようになりました。もちろん、前よりも一生けん命がんばっています。

そうして、わたしが運動できることが、あたりまえにもなったころ、国語の学習で、平和について調べて、自分の考えたことを発表するという活動がありました。わたしは、戦争がないこ

とが平和だと思い、戦争のことを調べてみました。すると、普通に生活していて、何も悪いことをしていないのに、戦争に巻き込まれ、食料も家もないような人が、たくさんいるということが分かりました。また、戦争が終わっていても、残された地雷で遊んでいた子どもが大けがをしたり、死んでしまったりしているということも、本にのっていました。本当に、こわいことです。

今、日本は、食べ物がたくさんあって、住む家もあります。地雷の心配もなく、安心して歩くこともできます。空からばく弾が降ってくることも、まず、ありません。平和だと思います。

でも、約七十年前は、日本も平和では、ありませんでした。今はあたりまえな平和も、昔は、あたりまえじゃなかったのです。戦争を反省し、平和にしようとする努力をしてくれた人たちがいたから、今、わたしたちは、平和に暮らすことができるのです。

わたしは、自分が運動できなくなると、思いきり動けることが、とてもうれしいことだと気がつきました。国語の学習をして、平和な日本にいたことが、とても幸せなことだと感じました。そして、二つのことから、今まであたりまえだと思っていたことも、決してあたりまえじゃない、変わってしまったかもしれないことなのだと思います。だから、わたしは、運動できること、平和に暮らせること、今、ここで自分の意見をみなさんに聞いてもらえること、いろいろなことを大切に思っ

過ごしていきたいと思えます。もちろん、あたりまえに呼吸をして、生きていられることも。



私と明和小学校

明和小学校6年

山内香純さん

今から四年前、私は三年生のときに埼玉県からこの只見町に引っ越してきました。雪がたくさん降ることは両親から聞いて知っていましたが、実際に今までに見たことがないほどの雪を見て、とてもびっくりしたことを今でも覚えています。緊張しながら初めて明和小学校へ行った日。教室にはたった十一人の友だちしかいませんでした。

それまで三十人以上もいた教室との違いに、また、おどろきました。しかし、この小さな明和小学校で、私はたくさんの心に残る経験をする事ができました。

転校してすぐに運動会がありました。

三年生の私は鼓笛隊で鍵盤ハーモニカの演奏をする事になりました。本当にできるようになるのかとても不安でしたが、クラスの友だちや先生、上級生たちがやさしく教えてくれ、なんとか運動会には、みんなと一緒に演奏することができました。明和小学校の鼓笛隊は一年生から六年生まで全員が参加します。七十名ほどの子どもたちが全員で一つの事を完成させるということがとてもすごいことだと思います。そして、上学年のお兄さんやお姉さんが下学年の人たちに教えていくという伝統もすばらしいと思いました。私も、もうすぐ来年度の新しい鼓笛隊に向けて、四年生に小太鼓の演奏を教え伝える事になります。今までの卒業生がしてくれたように、明和小学校の伝統と演奏を伝えてあげたいと思っています。

四年生からの三年間は、三十人三十一脚に取り組みました。これは私にとってもみんなにとっても忘れられない経験になりました。みんなで足をつないで走ることができた喜び、負けてくやしい思いをしたこと、友だちと助け合っ

て練習したことは、きっと他ではできなかった、すばらしい経験でした。四年生の冬、また新しい経験をする

ことになりました。それはクロスカントリースキーです。雪の経験も少ない私がかんなスキーができるようになるのか、不安でいっぱいでした。その年は、やはりフリーもクラシカルも思うように滑ることができず、くやしい思いをしました。五年生になってからは少しづつこつをつかみ、滑ることができるようになりましたが、それでも周りの友だちよりは上手ではないな、感じる事がありました。しかし、みんなが一生懸命練習に取り組んでいる姿を見て私もがんばろうと思い、練習しました。昨年はリレーのメンバーにも選ばれ、自分なりに精いっぱい滑ることができました。そんな私が、今年、クロスカントリースキーの副キャプテンをすることになりました。滑れるかどうかでも不安だった私が副キャプテンになったことに、自分でもびっくりしました。でも、今までがんばってきた気持ちと友だちの支えを力にしながら、六年生としての責任を果たせるようにがんばろうと思っています。

今は、こんなふうに「六年生としての自覚を持つ」と思えるようになりましたが、六年生になったばかりの四月、私にはまだまだ最上級生という意識はありませんでした。運動会では低学年の面倒をみる仕事をしました。三十人三十一脚では三年目で、私たち六年生が四年生や五年生を引っ張って全国大会へ行くんだ、という気持ちでがんばりました。児童会では運営委員長として、児童の代表なんだ、という意

識を持って活動する機会が多くありました。こんなふうに、今までの十ヶ月間に、この明和小学校で経験したたくさんのことが、私を少しずつ六年生らしくしてくれたのだと思います。もうすぐ、明和小学校の新校舎が完成します。残念ながら私たち六年生は新校舎で学習することはできないけれど、新しい校舎の教室にかける看板づくりなどで参加することができました。



只見中学校1年
中野なか翔しょうさん

野球を通して

去年の夏のことです。県営あづま球場。この日の第二試合、僕はライトスタンドで只見高校の応援をしていました。対戦相手は名門いわき高校。両者二回に二点ずつを入れ、その後延長戦に入りました。そして十四回裏、いわき高校に一点を取られサヨナラ。只見高校は負けてしまいました。

強豪校相手に五分五分の試合をした只見高校は、かなりの練習をしたのでしよう。努力をしたから、いい結果を残せたと思います。僕はこの試合を見て、僕たちも負けていけないと思い

ました。夏休みの練習は、毎日午後まで続けました。午前中は全体練習。午後は自主練習です。バッティングマシン二台を使い、打ち込みを行いました。今年はとても暑く、僕は、このつらい練習を乗り越えればきっと結果も出せると思いました。

そして、迎えた新チームとして最初の大会。チームは郡大会を順調に勝ち上がり、会津大会を迎えました。初戦の相手は春の大会で負けた本郷中学校。相手のエラーもあり、会津大会初の一

勝をあげることができました。続く準決勝は若松四中、決勝は若松三中でした。いずれも若松市内の強豪校です。しかし僕たちはその学校に勝ち、優勝することが出来たのです。

僕もこの大会、レフトで試合に出させてもらうことが出来ました。とても緊張しました。一生懸命声を出しました。特に決勝戦は雨の試合でした。五回ツーアウトランナー二、三塁で打席が回ってきました。僕はファーストフライでした。打っていけば点が入ったはず。申し訳ない気持ちで一杯になりました。試合は最終回までもつれました。最後は二年生の活躍で最終回サヨナラ勝ちです。打てなかった分、カバールてくれた先輩達には感謝の気持ちがあふれました。チームの弱い部分をみんなで補うのが、野球の良いところだと思います。僕もチームメートのカバールが出来ると目指したいと思いました。

県大会は負けたチームの気持ちを考えると適当な試合は出来ません。一回戦の相手は郡山一中。民報杯という大会で、県大会優勝チームです。初戦から強豪チームです。

初回、守りについた只見は、試合開始のサイレンの直後、初球レフトオーバールのエンタイトルツーベース。いきなりのピンチに、エラーも出てあっさり一点を取られてしまいました。この一点が響き、そのまま一対〇で負けしまいました。僕は先発メンバーではなかったのですが、精一杯応援やサポート

をしました。最終回に守備で出る機会をもらいました。裏の攻撃も二死ランナー無しという場面で僕の打席です。しかし、監督は僕のところで代打を起用しました。僕の気持ちは複雑でした。「僕で凡退したらチームは負ける。」

そんな弱気を感じ取られてしまったのかと思います。でも、代打を告げられたときはショックでした。結局、最後の打者も三振に終わり、初めての県大会は終わりました。何も出来ないまま試合が流れていった、そんな何か無力さを感じさせる試合でした。

きっとこれは野球の神様が与えてくれた試練だったのでしょう。この苦い経験は、僕自身にもチームにとっても大きな経験でした。試合後、ミーティングでこの試合何をすれば良かったのか考えました。

「勝ちたい気持ちが足りなかったのか。」
「緊張していたのか。」
「ゲームの流れ、勢いに乗り切れなかったのか。」

そして結論は、「自分たちの野球」がどういう野球なのか。「どういう野球をしたいのか。」目標がないまま試合をしていたことです。

それからチームに変化が現れました。まず僕は、「大事なところでも替えられたくない。」という意識が強くなりました。チームも、練習に対する意識が変わるのを感じました。強豪チームと対等に戦えたことも自信にもなりました。「次は絶対勝つ！」という気持ちも出てきました。

ちょうど一カ月後の福島県中学校新人野球大会。僕たちは県大会の決勝戦に臨んでいました。相手は因縁の郡山一中です。最終回、エースの大竹大和君が最後の打者を三振に取りゲームセツト。前回の試合をそっくりそのままお返ししたような試合でした。

表彰式に臨みながら、「自分たちの野球」が少し見えたような気がしました。これからは「自分たちの野球」を追い求め、野球の道を歩いていきたいと思えます。

只見中学校は周りに野球チームも少なく、町場からも離れているので、練習試合も思うようにできません。でも、「これで練習試合の申込みがふえる。」春になればこの町に、たくさんの中学校在りやってくる。

「大好きな野球がたくさんできるようになる。」
「がんばりたいのか。」
「がんばります。」

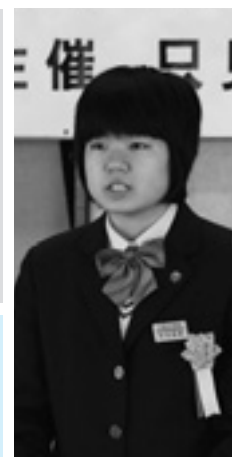
がんばれば、がんばった分だけ、よい結果につながることを野球を通して経験することができました。また来年も、たくさんの人に応援してもらえような野球をしたいと思えます。ご静聴ありがとうございます。



郷土料理への思い

只見中学校 2年

ほん な な 菜 さん
本 名 奈 菜



凍み餅、笹巻き、そば焼き餅。これは、私の好きな食べ物です。私のばあちゃん、毎年冬になると凍み餅を作ってくれます。近所の人も、おいしい凍み餅ができる、それを持って来て一緒に食べたりします。凍み餅の味も、豆が入っている物や、油で揚げたものであるものなど、一軒一軒違うので、とてもおいしいし、おもしろいです。

でも、そんな中でも食べることでできない物があります。それは「いずし」です。そのいずしを、私のお父さんは「うんめえな。」

と言って食べます。私はまだ分かりませんが、お酒を飲む人にとっては、たまらない味だそうです。

私は小学校まで、郷土料理なんて「田舎の食べ物」くらいとしか思っていませんでした。特においしいという食べ物でもないし、何より、カレーやハンバーグのような豪華なイメージと現代風の感じがないからです。

けれど、中学校に来てからは、考えが全く逆になりました。きっかけは、一年生の時の総合学習です。それで只見について調べることになったのです。只見の動物に植物、文化や方言など、たくさん題材の中から、私は「郷土料理」を選び、調べることにしました。

私以外に郷土料理を選んだ友達はい意外に多く、分担して料理を探すことにしました。その中には、私が知っている食べ物がたくさんありました。その中の一つが、大晦日に食べる「お平」です。凍み餅のように好んで食べることもなかったのですが、栄養的にバランスの良い健康食だと知りました。バランスまでちゃんと考えて作ってあるなんて、郷土料理は田舎の食べ物だと思っていた私には、衝撃的でした。昔は、栄養を分析する機械なんかはなかったはずですが、それなのに、バランスがとれた食品を作り出したのか、とても不思議です。きっと、手間ひまをかけて、おいしく、尚且つバランス良く作り出されたのでしょう。魚を干したり、発酵させたりと、大変だったと思います。

この話をする時、「何でいろいろと便

利になった今も、郷土料理を作っているの。別に、手間がかかるなら、必要ないんじゃないの。」と考える人が出て来ると思っています。私もそう思っています。小学校までは。でも今、よく考えると、「本当になくしても良い物なのだろうか。」という疑問がわいてきます。郷土料理というのは、その町の歴史だと私は考えます。その歴史を私達の代で途絶えさせてもいいのでしょうか。便利なものがない昔に、一生懸命考

え、作り出された郷土料理。そんな簡単に私達がなくしていいとは、全く思えません。一つの郷土料理には、たくさん町の暮らしや文化が詰まっているのです。

だから私は今、郷土料理をおいしく食べるのではなく、自分でも作ってみようと考えています。そうすれば、郷土料理を食べる楽しさや、大変さが分かると思います。それに、現代の食べ物とは違う温かさ、嬉しさなどを見つけ出せるのではないのでしょうか。いつか大人になって、見つけ出した物を、今度は私がみんなに伝えていきたいです。そのために、今のうちから、給食やお祭りなどを通して、郷土料理とたくさんふれ合っていこうと思います。そうしていけば、私はもうこの大切な料理を「田舎の食べ物」だなんて思わなくなるでしょう。むしろ、「先祖代々の秘伝の味」と考えるかもしれない。みなさんもこの奥深い郷土料理を、私と一緒に追求してみませんか。そして、ばあちゃん。今度私に、笹巻きの作り方を教えてね。

みなさんは「ありがとう」という言葉を使ったのはいつですか？人は、誰かに親切にしてもらったとき、心から感謝の気持ちを表現します。私はずい分、心を込めて「ありがとう」と言っています。細かなことで「あっ、あなたが」とか「どうもどうも」などと、何気なく使っています。心から感謝の気持ちを込めて「ありがとう」とは言わなくなりました。もしかすると、言えなくなってしまうたのかもしれない。

自分からは言わないのに、周りからは言ってもらえます。周りの人がどんな気持ちになるのかは、だいたい想像がつかます。このままではいけないと思いつつも、相手の目を見て真剣に「ありがとう」と言うことに恥ずかしさを感じるようになりました。「ありがとう」という言葉はとても便利な言葉だと思えます。相手の気持ちをよくするだけでなく、自分の気持ちまで晴れやかにさせてくれます。そんなたった一言がなかなか口から出てこなくなっ



ありがとう

只見中学校3年

目黒紗智さん

ていました。

でも、あるテレビ番組を見て、私の考えはひっくり返されました。それは白血病で亡くなった歌手の本田美奈子さんの特集番組でした。本田さんは、入院して辛い治療が続いても笑顔を絶やさず、逆に周りの人を元気づけていたそうです。その本田さんが、亡くなる前に『ありがとう』という詩をつきました。その詩の中には、

「誰かに感謝することで自分に喜びが生まれている。」

という文が出てきます。感謝する喜びや生きている喜びをかみしめて書かれているように感じました。私は、死を目の前にして、こんなに平静でいられるのだろうかと思いました。きっと死への恐怖と不安で、ふさぎ込んでしまうと思います。また本田さんは、その詩の最後を

「ありがとうよ ありがとう」

という言葉で締めくくっています。この言葉で、完全に私は考え方を改めました。「ありがとう」という言葉で、

人の喜びや感謝の気持ちはつくられることもあるのだと素直にそう思い、大切なことなのだということに気づかされました。本田さんは亡くなるまで、この「ありがとう」という言葉を大切にしていたんだと思うと、この言葉のもつ偉大さを感じます。感謝の気持ちだけでなく、生きる勇氣さえも与えてくれるのだと思います。今、私は、心からの「ありがとう」を、今まで言いたくても言えなかった人たちに伝えたいという気持ちになりました。

そんなに大切な「ありがとう」という言葉を、恥ずかしいからとか、照れくさいからなどという気持ちで言えなかった自分が逆に恥ずかしく思えてきました。まだ面と向かって言うのは恥ずかしいかもしれませんが、感謝の気持ちを表現する第一歩として素直に伝えてみようと思います。

世界に「ありがとう」という言葉のない国はないはずです。意味や使い方も全世界共通だと思っています。言葉は違っても、世界の国々の「ありがとう」という言葉の響きやニュアンスは、必ず伝わると思います。感謝の言葉が聞こえる場所で生活できたら、きっと一日一日をすがすがしい気分で送れるはずです。そのためには、まず身近にいる友人や家族に、笑顔をつくる魔法の言葉をかけてみようと思います。

私を支えてくれた友だち、いつも応援してくれている家族、本当にありがとう。ご静聴ありがとうございました。

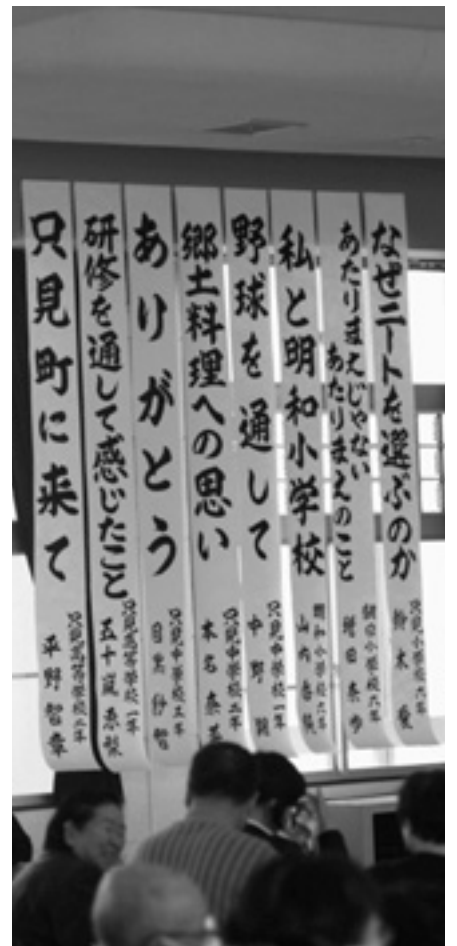


研修を通して 感じたこと

只見高等学校 1年
五十嵐 梨さん

私は今年の夏休みに南会津高校生徒台湾視察研修事業で台湾に行ってきました。田島高校から二名、南会津高校から二名、そして只見高校から私が参加し、五名の高校生を含む十二名が台湾の学生と交流してきました。

私は今回の研修で感じたことがあります。まず、日本の学生と台湾の学生の積極性の違いです。台湾の学生との交流で、二人ペアで話す時間がありました。その時に私や、一緒に行った他の高校の生徒は、質問に答えるばかりで一つの質問が出来ませんでした。特に台湾の



生徒と初めて話した時は、質問されると答えていましたが、会話が途切れると同じ学校の生徒同士で話してしまいました。しかし、台湾の生徒はそうではありませんでした。なかなか話しかけられずにいた私達に積極的に話かけてきてくれました。それも、あいさつや簡単な言葉なら日本語で話しかけてくれたのです。

私はこの学校から帰って来る時、自分から質問することがなかった事や、自分や学校の事などを伝えられなかったという事をとても後悔しました。日本語でなら積極的に話せるのに、英語でとなると話せなくなってしまいました。私も外国の人にも積極的に話しかけられるようになりたいと思いました。

また今回の学校交流を通して気づいたことがもう一つあります。それは海外へ行った時に使う英語は完璧でなくても良いという事です。単語で話しても、英語に多少の間違いがあっても、伝えようとすれば案外伝わるものだと思います。もし聞き取ることが出来ないのなら筆談

をすれば良いのです。また、書くものがないのならジェスチャーを使えば相手に伝えられます。私は最初、使っている言葉が違うということに不安を感じていました。しかし、意外にも平気なもので、もっと交流したいと思う程でした。

日常で私達は日本語を使い、台湾では中国語が使われています。使っている言葉が違う私たちを、多くの人々が知っている英語がつかないでくれました。交流事業のペアでの会話や学校案内の時にもし英語が全く分からなかったら、台湾の生徒達と仲良くなれなかったかもしれない。英語が少しでも分かったから、彼らと話すことが出来たのです。だからこそ私は外国の人と少しでも多く話せるように英語をもっと勉強しようと思いました。それとともに今回の研修で感じた、相手を理解し、思いやり、コミュニケーションをとろうとする気持ちや、伝えようとする気持ちを大切にもっと伸ばしていきたいと思っています。



只見高等学校2年

平野 智章さん

只見町に来て

私は今、只見町の山村教育留学生として寮生活をしています。伊南中学校を卒業し、只見高校に入学する時に寮に入りました。中学の頃から只見高校に行きたいと思い、そして部活や寮生活をしてみたいと思っていました。

私は、親元を離れ勉強や部活動をする生活が憧れで、自立もすっかりできると思っていました。しかし、実際は学校や寮の環境になれることは大変で、周りには知らない人ばかりだったので、緊張して何をしていいのかわからず戸惑うことばかりでした。部活は野球部に入りましたが、自分のプレーが思うようにできず、怪我などもあり、練習を休むことが多くなり、結局やめてしまいました。何をやってもうまくいかない自分に腹を立て、目標を見失い、何もやる気が起きませんでした。

思うことと言えば、「こんなはずではなかった。」ということでした。「自分はなぜこんなことをしているんだ。」などという気持ちでいっぱいになり、自分が自分でいられなくなる感覚に陥りました。

私は学校が嫌になり、寮生活に不満も感じるようになり、けんかやトラブルを起し、先生や親に迷惑をかけることもあり、悩みを相談したくてもそれができず、ずっと一人で悩んでいました。これが一年生の十月頃まで続き、この生活にも限界を感じていました。もう無理だと思ってたその時、担任で陸上部の顧問でもある若松先生が私に声をかけてくださいました。それは、「陸上部に入ってみたいか。」という言葉でした。私は中学の時、野球の他に陸上もやっていました。そして高校では野球を選びました。しかし、その野球もやめ、体力が落ち、やる気が全くない自分が陸上をやるだなんて無理だと思いました。今更やりたいとは思いませんでした。私は、「やりたくない。」と言いましたが、若松先生は諦めませんでした。そして私は、陸上部に入るようになりました。「なんでやらなきゃいけないんだ。」と思いつつも練習には毎日参加しました。部員は私を含め四人だけで、野球部とは全く違った雰囲気でした。練習

習はやはり辛く、「いきなりこんなにやるなよ。」と思いました。しかし、チームメイトの励ましもあり、辛くても練習を続けることができました。練習を続けていくうちに私は、あることに気がきました。それは、学校生活と寮生活、そして陸上楽しいと思えるようになったことでした。その時の私は、なぜそのような感情になったのかわかりませんでした。分らない事が気になり、若松先生に聞いてみました。すると若松先生は、「あなたの居場所を寮だけにしただけじゃなかった。陸上に入れば何かが変わると思った。」と私に答えました。初めはこの言葉の意味がよくわかりませんが、今、今の自分と陸上部に入る前の自分を比較してみると答えはすぐに出ました。ただ学校に行き授業を受け寮に帰るだけの生活とは違い、陸上という部活動を始めたことで、目標を持つようになり、人との接触が増え、周りも自分を見るようになり、そこから新しい人間関係が生まれるようになる。目標に向かって努力すること、そして一緒に頑張って頑張る仲間をもつことの大切さ、それが答えでした。若松先生はそれに気が付かせてくれました。以前の自分は、気が付かないうちに一人ぼっちになっていたかもしれない。でも今では、多くの友達、先輩、後輩と楽しく学校生活を送り、寮でもしっかり自立した生活ができるようになっています。私は、若松先生に感謝しています。

そして、陸上部に入って良かったと思います。陸上は私を変えてくれました。



初めに言ったとおり親元を離れ、全く違う環境で生活するのはとても大変です。これは、いずれ誰もが通らなくてはいけない道だと思っています。

ですが、これを高校時代にできるという事は、とても貴重な体験でもあり、財産でもあります。私は、只見に来て本当に良かったです。只見高校と寮生活で私は、たくさんの事を知り、学びました。またこれからは挫折したり、孤独を感じたりと様々な試練が待ち受けていると思います。しかし、その時はまたそこから何かを学びとり、良い方向にもっていくような頑張りたいです。只見での生活は残り一年ですが、陸上でも進路実現でも悔いの残らない学校生活を送りたいです。私は、只見で変わり続け、学び続けます。

青空の下で豪快なシュプール

只見毎日杯ジャイアントスラローム大会

第36回只見毎日杯ジャイアントスラローム大会が1月25日、只見スキー場でおこなわれました。晴天のもと、町内外から81人が参加しました。専修大学の梁取那緒さん（長浜出身）が最高タイムを記録しました。



ゆるやかな斜面の滑りが勝負を左右

結果は次のとおりです。（敬称略）

男子

旗門数1本目18旗門、2本目18旗門。タイムは2本合計

【小学1部】①板橋瑞樹（三島町スキースポーツ少年団）1分17秒84②菊地朝仁（たかつえレーシング）③川又洗希（たかつえレーシング）

【小学2部】①土橋銀平（南郷ジュニアレーシング）1分02秒66②長谷部尚仁（フォーチュンスポーツ少年団）③菊地大樹（たかつえレーシング）

【中学】①芳賀祥（たかつえレーシング）1分01秒47②鈴木達也（只見町スキースポーツ少年団）③菊地貴史（柳津町スポーツ少年団）

【少年】①目黒秀昂（三島町ス

キースポーツ少年団）1分06秒15

【成年1部】①梁取那緒（専修大学）59秒99②菊地亮（日本体育大学）③新國健道（只見町スキークラブ）

【成年2部】①雪下明（金山スキークラブ）1分02秒80②星弘（新潟県魚沼市）③川井芳彦（会津若松市）

【成年3部】①菅家壽一（三島町スキースポーツ少年団）1分10秒09②板橋泰二郎（三島町スキースポーツ少年団）

【シニア】①佐久間宗一（三島町スキークラブ）1分07秒56②溝井賢一郎（玉川スキークラブ）③鈴木隆司（福島県マスターズスキー協会）

女子

【小学1部】①白岩真帆（喜多方スキースポーツ少年団）1分18秒92②馬場海羽（南郷ジュニアレーシング）③菊地由芽（柳津町スポーツ少年団）

【小学2部】①五ノ井優花（金山スキースポーツ少年団）1分09秒84②佐藤萌（柳津町スポーツ少年団）③白石いつか（喜多方スキースポーツ少年団）

【中学】①栗田いつき（金山スキースポーツ少年団）1分06秒84②藤田夏南（柳津町スポーツ少年団）③目黒里佳子（三島町スキースポーツ少年団）

【一般】①石川沙亜弥（南会津高校）1分03秒29

各種県大会での町出身選手の活躍

▶県中体連スキー競技大会（1月13日～15日・金山町）

【クロスカントリー男子フリー（5㌔）】

⑩藤田 暁嗣さん（東北大会出場）

【アルペン男子スラローム】

④川合祥太郎さん（全国、東北大会出場）

⑦目黒 岳さん（東北大会出場）

▶県総体スキー（1月23日・猪苗代町）

アルペン大回転

【成年男子A】④梁取 那緒さん

【成年男子B】①新國 健道さん

▶県総体スポ少スキー大会（1月31日・金山町）

男子大回転

【小学5年】⑨目黒大成君

【小学6年】⑥目黒 郷君

【中学2年】①川合祥太郎さん

奥会津の人と気持ちが好き

12年続く雪おろし体験ボランティア



右／只見ホームを除雪
下右／奈良県からの参加者もあった
下左／にしん漬はここでしか食べられないと好評だった



10回目の参加となった雪おろしボランティア

藤田 保男さん

NPO法人ハートネットふくしま（郡山市）主催の「雪おろし体験ボランティアin奥会津」が、今年も只見町にやってきました。12回目となる今回は、県内外から12人が参加しました。雪おろしと地元の高齢者やボランティアとの交流を深めることを目的におこなわれています。

一行は1月30日から奥会津の金山町、昭和村、三島町での雪おろしをし、31日午後から2月1日午前中にかけて只見町で雪おろしをおこないました。

只見町では、平成4年に町が主催した海外研修事業「町民の翼」で欧州に行った研修生でつくるシエルナッハの会が受け入れ団体となっています。

例年と比べ雪が少ないため、雪おろし体験には少し物足りないかもあったようですが、ボランティアは只見ホームの窓明かりをとるための除雪をしたり、民家周りの除雪をしたり、精力的に活動していました。

1日の昼食は、食生活改善推

進委員の菅家紀子さん、菅家文子さんの協力で、只見の郷土料理「にしん漬」を、にしん漬、ぜんまいなどを味わいながら、交流を深めていました。

郡山市から参加した藤田保男さん（72歳）は、「10回目の参加になります。15年前に病気になることがきっかけで、ボランティア活動を始めました。奥会津の人と気持ちが好きです。心のこもった料理もいただきました。また来年も来たいと思います」と話していました。

ハートネットふくしまでは、「この時だけしかお手伝いできないので、雪おろしはあまり役に立たないかもしれない。しかし地元の方との交流を続けていくことになるのではと思っています。つながりを大切にしていきたいと思えます」と話していました。ハートネットふくしまは、昨年6月に起きた宮城・岩手内陸地震の被災地栗原市栗駒で、毎週日曜日、炊き出しをおこなっています。

いずしづくりの伝統を後世に 安全性の確保を研究

町伝統食品活用研究事業

只見町伝統食品活用研究事業
委員会（鈴木純委員長）は1月
19日、只見地区センターでハヤ
のいずしの試食会（官能評価）
を開きました。今年度は養殖ハ
ヤと田子倉湖産ハヤを使い、木
製樽とステンレス樽で漬けた場

合の比較を研究しました。
委員会は平成18年から、近藤
榮昭郡山女子短期大学教授の
指導を受け、すし漬けの衛生的
な漬け込み方法の確立を検討、
マニュアルの作成にむけた取り
組みをしてきました。

平成18年度は伝統的な漬け方
について情報を集め、研究しま
した。平成19年度は大量に漬け
た場合と少量で漬けた場合、ま
た6ヶ月漬けた場合と3ヶ月漬
けた場合の漬け込み期間の比較
研究をしました。

委員会による3年間の試験製
造では、ポツリヌス菌検査の結
果、いずれも嫌気性菌の生育が
見られず、ポツリヌス菌はありま
せんでした。

しかし試験製造と、一般家庭
での製造では、作る環境や設備
が違いため、すべてのいずしが安
全ということはありません。

伝統食であるいずしは、冬季
の保存食として親しまれていまし
たが、昭和52年に町内でいずし
を食べたことによるポツリヌス中
毒事件が発生し、南会津保健所
では、現在も家庭でいずしを
「つくらない」、「食べない」、「人
にあげない」という三ない運動を
おこなっています。

委員会では、先人が築いた食
文化を絶やすことなく町の財産
にしたいと考えています。安全な
製造方法を確立し、誰もが安心
して食べることができるいずしづ
くりを後世に伝えるため、委員
会では今後も研究していきます。





只見町消防団出初め式

町消防団出初め式は、1月11日、朝日地区センターでおこなわれ、消防団長以下50人が参加しました。式は、午前9時のサイレンを合図に始まり、消防長の目黒吉久町長が閲団し、無災害を祈願する神事がおこなわれました。

目黒吉久町長は、「町民が安心して暮らせる町づくりに本年も努力していただけるようお願いします」と訓示しました。

馬場光男団長は訓示で「本年も火災を出さない予防消防に力を入れていきたいと思えます。犠牲的消防精神で力強い協力をお願いします」と述べました。南会津広域消防署の大竹恒只見出張所長らが来賓祝辞を述べ、矢沢千代婦人消防隊長の発声で出席者が今年一年の無火災を祈り、乾杯しました。町では昨年4件の火災と2件の捜索がありました。



新年交歓会

町新年交歓会は1月5日、季の郷湯ら里で開かれ、約130人が出席しました。

目黒吉久町長、齋藤邦夫町議会議長があいさつした後、皆川誠司南会津振興局次長が祝辞を述べました。

祝宴では、松風会が謡を、つくし会が日本舞踊を披露しました。出席者は新年の飛躍を誓い合いながら、なごやかに歓談しました。

川合公祥さんが 緑十字銀章を受章



第49回交通安全国民運動中央大会が1月16日、東京都千代田区でおこなわれ、川合公祥さん（只見）に交通安全栄誉章

緑十字銀章が贈られました。

川合さんは交通安全協会役員として長年にわたり活躍、平成15年から現在まで南会津地区交通安全協会副会長を務めるなどの功績が認められました。

民生児童委員に 角田氏

1月6日、角田勝昭さん（小林）に目黒吉久町長から委嘱状が手渡されました。任期は平成22年11月30日までです。担当区域は小林下地区です。





▼ 1チーム3人。円形の標的をめがけローラーを転がす



カ だみコミュニティークラブが交流会 ローリングで広がるみんなの輪

氷上でおこなわれるスポーツカーリングの室内版が、カローリング。2月1日只見中学校体育館でおこなわれたカローリング交流会に38人が参加しました。はなわふれあいスポーツクラブの佐藤光一氏、藤田健氏が、ゲームのルールや技術をわかりやすく指導しました。参加者は、「初めて会った人たちとも楽しくでき、世代を越えて楽しめる」と話していました。



▼ 雪まつりにむけて最後の仕上げ練習に取り組む



梁取太々神楽を継承

雪まつりで 若い担い手がデビュー

県無形民俗文化財に指定されている梁取神楽。2月14日の只見ふるさとの雪まつりのオープニングで、伝統の技を引き継いだ30代の若手による神楽が演じられます。若者たちはこれまで、先輩の厳しい指導を受けながら、集落内の行事で神楽を披露するなどし、技を磨いてきました。親の世代から子の世代へ伝統芸能を引き継ぐことに成功した梁取芸能保存会。これからの活動が注目されます。

▼ 楽しく対話方式で指導する佐竹先生



イ 発酵を学ぼう！ ー ストを使った料理教室

「発酵を学ぼう！」と題して、イーストを使った料理教室が朝日地区センターでおこなわれました。

講師に只見高等学校の佐竹美智子先生を迎え、1月15日、22日、29日の3回に渡り、ピザ、パン、中華まんの作り方を学びました。参加した14人は1時間ほどでふっくら焼きあがるパンに「こんなに手軽に作れるなんてびっくり！」と、調理終了後、先生にいろいろな質問を投げかけ、次回の教室開催を希望していました。

▼ 2回の教室で全員が滑れるようになった



若 初めてでも滑れるようになりました 者スノーボード教室

南郷スキー場を会場に1月18日、25日おこなわれた明和地区センター若者スノーボード教室で、元プロスノーボーダーの山内征久さんから参加者7人が基礎技術を学びました。初めて滑る参加者が3人いましたが、山内さんの的確な指導で全員滑れるようになりました。ゲレンデは若者の交流の場ともなり、和やかな教室となりました。

「只見地区センター冬季講座 只見に学ぼう！」古文書判読講座

1月20日から只見地区センターでおこなわれている古文書判読講座は、講師を置かずに受講者同志で調べながら読み進めています。只見に残る古文書や、町内の渡部喜満さんが昨年自費出版された「風俗帳」を基に、受講者が声に出して読みながら、その当時の歴史や文化について学んでいます。1回目の20日は、「伝説義経の粟証文」という内容の古文書を読みました。



▲ 只見の文化の奥深さや先人の知恵にふれる

粘 シルバーアクセサリー体験講座 土が銀に変身

1月23日、30日明和地区センターで、銀粘土技能認定者の鈴木久美さんを講師に、シルバーアクセサリー体験講座が開かれました。参加した7人は銀粘土という素材を使って、ペンダントトップを作りました。美しい純銀になる粘土に、参加者は最初、半信半疑でしたが、完成した作品の手作りとは思えない輝きに全員感激していました。



▲ ブラシを使って磨くと純銀の輝きが



黒谷入地区／アンデルセン作り



小林地区／室内グランドゴルフ



塩沢地区／河井継之助記念館見学

寒い冬は、あったかいコタツに入って家の中にこもりがちになります。皆さんはいかがお過ごしですか？ 今日、そんな冬場でも元気に活動している人達を紹介したいと思います。

今年の6月から塩沢・黒谷入・小林地区で、65歳大学が始まりました。

65歳大学とは、首都大学東京の山田教授ほか、先生方の指導をうけ、介護予防モデル事業として始まりました。具体的な活動としては塩沢地区では、塩の歴史について調べ、その内容を冊子にまとめました。

また黒谷入地区では、広告の紙を使ってアンデルセンを作ったり、5円玉細工を作ったりなど、皆さんでお茶を飲みながら楽しく作品を作っていました。

小林地区では、興味や価値について首都大学東京の先生からお話を聞き、それをもとに皆で相



「たっしやで長生き」

保健師
竹花 まりこ

また黒谷入地区では、広告の紙を使ってアンデルセンを作ったり、5円玉細工を作ったりなど、皆さんでお茶を飲みながら楽しく作品を作っていました。

小林地区では、興味や価値について首都大学東京の先生からお話を聞き、それをもとに皆で相

また上福井や叶津・入叶津・八木沢地区では、元気いきいき教室で運動や体操をしたり、坂田・布沢・小川地区ではサロンで歌や運動を行ったり、など楽しく活動しているそうです。

只見町の高齢化率は41.1%で、全国平均22.2%よりも大きく上回っています(平成二十年十二月一日 現在)。でも只見町にはこの様に、元気に活動している高齢者の方が、たくさんいらっしゃいます。皆さんも「たっしやで長生き」を目標に、各地区で活動を始めませんか？

詳しくは保健福祉課保健班 (☎84-7005) までご連絡ください。

ヴィッキーの にっぽん紀行

Vol. 3

Victoria・Potter

ヴィクトリア・ポッター
・1980年生まれ。英国ノーリッチ出身。
2008年8月から町英語指導助手。



クリスマス前の週末に初めてスノーボードをしました。私は生まれつきスポーツができる訳でなく、さんざんな事になるだろうなと思っていました。でも、それほど上手ともいう訳ではないのですが、それほど下手でもない自分に驚いています。残念な事に一緒に行った人たちのグループには、私に教える事ができる人はいませんでした。うまく滑ったかと思うと突然転んだ

りしながら、一日を過ごしました。その日の最後までには、私の膝や体の他の至るところにひどいアザができました。しかし一つの事を覚ええました。スノーボードが大好きになりました。きっとこの冬の最後までには上手になっているかもしれない。でも、今のところはこの冬皆さんがスキーに行ったり、スノーボードに行ったりすれば、斜面を何度も転じている人を見る事で

しょう。そう、多分それは私です。

私は上海でクリスマスと新年を過ごしました。これが初めて家から離れて過ごしたクリスマスでした。でも、クリスマスのような雰囲気ではありませんでした。イギリスでは、クリスマスまでの週は、たくさんクリスマスのにぎやかな宣伝があります。テレビでのクリスマス宣伝、店のクリスマスプレゼント、街中のクリスマスツリーや飾り、クリスマスの音楽などが11月中旬頃の早い時期から行われます。その喧嘩から慣れていると、クリスマスの日が近づいているのに気がつきませんでした。私や私の友達は、クリスマスの日を上海で過ごして、全ての国がクリスマスをお祝いとは限らない事が分かりました。生活はいつもと変わりなく過ぎていたのでした。それに比べ、イギリスのクリスマスは国中が買い物に出かけるような大きな行事です。

上海はすばらしい都市です。イギリスと日本の違いに慣れてきたので、自然と日本とこの小

さな港街の違いに気づきました。でも、日本と中国は違うところがたくさんあり、互いの違いをいちいちあげていけば、一日中かかるほどなのでそれはやめま。クリスマスの期間、その街の近代的なところや古いところを見て楽しみました。また蘇州と香港に2日の旅に出かけ、サーカスを見、中国の伝統的なものやそうでない食べ物をたくさん食べました。日本よりたくさん洋食がある事にも驚きました。日本に来てから食べていないものをたくさん食べる事もできました。でも、日本の食事は私が食べた洋食よりずっと自分には良いと思えました。特に給食が私には良いと思えました。でも、自分では全く料理はできませんが。

日本に帰れてうれしいですが、上海で楽しんだ事で、これから新しい年が楽しみになります。きっと、只見の皆さんも楽しい冬休みを過ごし、新しい年を楽しみにしている事でしょうね。

(訳・只見中 池上)

町史

とっておきの話

175

栃木県立博物館名誉学芸員

柏村 祐 司

今月号から栃木県立博物館名誉学芸員の柏村祐司先生が只見町の民俗を6回に分けて連載します。柏村先生は、栃木県立博物館学芸部長を最後に退職されましたが、只見町の民俗調査は20年以上も続けられており、これまでに同博物館の特別展で只見の狩猟や民具、つる細工などをいろいろな形で紹介されてきました。今回はそのエッセンスを連載していただきます。



狩猟姿をした故 皆川喜助さん

山間地の人々の暮らしに興味と関心を持つ私は、南会津、中でも只見町の人々の暮らしぶりに魅了されました。只見町には自然を上手に利用してきた人々の生活の知恵がたくさん息づいており、また、自分たちの生まれた故郷をこよなく愛し、先人の生き様をしつかりと後の人々に伝えようとする息吹が感じられたからです。今回から6回に分けて、これまで伺ったお話を記すことによって、調査でお世話になった方々へのせめてもの恩返しといたします。

只見町には栃木県の日光地方にはない独特な狩猟習俗があり、

その一部は今なお狩人の間で傳承されています。その一つが秋田の阿仁のマタギの影響を受けた狩猟習俗です。阿仁のマタギの活動範囲は広く、江戸時代には東北一円にまで及び遠く只見までやってきました。そうした阿仁マタギの来訪を伝える話として「塩ノ岐の目黒俊衛家の先祖は秋田の猟師であった」、黒谷入の倉谷は、狩猟の盛んな集落であったが「熊捕りは秋田が元だ」、「黒谷川の上流には『秋田衆小屋場』と呼ぶ場所がある」などといった話はよく知られたものです。

秋田マタギがもたらした物として、マタギ文書があります。旧田子倉の皆川政一郎氏所蔵の「山立根元巻」がそれですが、中身は赤城の神と争っていた日光の神をマタギの先祖である万三郎が助け、勲功により日本国中の山々での狩りを許されたことと穢れはらいの修法とを記したものです。マタギ文書は、もと

もマタギが余所の土地で狩をする際に、狩の権利を主張するために作成した偽の文書です。諸国を渡り歩いた阿仁マタギならではの知恵から創作された物です。皆川氏所蔵の「山立根元巻」は、マタギが所持していた物を手本に多少書き加えたものと思われま

す。阿仁マタギがもたらしたものとしてはその他に、狩場を神聖な所として里と区別する風習や指揮者を中心とした組織的な狩猟方法などがあります。狩場を神聖な所とする風習では、狩に行く際に山の入口にある山ノ神で祭りを執り行い、そこから上では里の言葉を使わずに山言葉を使うといったことが見られます。山言葉は一種の隠語で、例えば熊をコシマキ、太陽をオオデラシ、月・星をコデラシ、血をネイガネ、米をタグサなどといいます。もし、誤って里言葉を口にすると、親方から真冬でも「精進潔斎が足りないからだ、水を

浴びてこい」と怒られたそうです。指揮者を中心とした組織的な狩猟方法は、カモシカ狩と熊狩とで行われました。カモシカ狩をシシヤマ、熊狩をクマヤマといい、ともに一般に言う巻狩の方法によるものです。狩は沢単位に行い、見通しの良い所に指揮者が位置し、それ以外は獲物を追う役と獲物を射止める役とにわかれます。指揮者を山言葉でメアテ、獲物を追う役をナリコ、射止める役の中でも中央に位置する者をシンのマチメ、その両側に位置する者をイデシのカタ、カッテのカタとそれぞれ言います。こうした狩の話は、主に旧田子倉出身の故皆川喜助さんより聞き取ったものです。大正3年生まれの前喜助さんは、旧田子倉の昔ながらの狩猟を経験した最後の人で、山言葉やクマヤマのことだけでなく、田子倉での暮らしを実によく記憶されていた最高の話者でした。改めて感謝申し上げる次第です。

導入地区ごと異なる消雪道路状況

消雪パイプと関わる人達の活躍(5)

● 樋口 良之 福島大学理工学群 共生システム理工学類 准教授



ひぐち よしゆき

東京生まれ
博士(工学)長岡技術科学大学

平成5年 ㈱重松製作所研究員

平成6年 山形県庁上級職員技術
吏員

平成12年 長岡技術科学大学講師

平成16年 長岡技術科学大学助教授

平成19年 福島大学准教授

・研究分野は「生産および物流シ
ステムのモデリングに関する研
究」ほか

只見町の消雪パイプ、消雪道路といっても、消雪能力、道路構造、交通量など差異があり、その差異に応じた運転と工夫があります。今回は、消雪パイプが設置されている消雪道路事情についてお話しします。

消雪パイプは、散水の熱で路上の雪を融かし消します。そのため、散水の温度と量の確保が重要です。只見町では、水源として、黒谷などのように10℃前後の地下水を利用している地区、あるいは、町下、町役場前など3℃程度の河川水などを活用していると思われる地域があります。これだけの温度差があるのですから、消雪能力に差

異があるのは当然のことです。

河川水などを活用する散水温度の低い消雪パイプでは、散水量を大きくすることで消雪能力を高めます。JR只見線会津川口駅前の国道252号線で、勢いよく多量の散水が行われているのをご存知の方も多いと思います。ここでの散水も3℃程度ですが、散水量を大きくし高い消雪能力があります。只見町でも、散水温度の低い長浜、川除、樋戸、上町、町下、只見宮前、蒲生、町役場前といった地区では、散水量を増やせばいいと思われませんが、大容量の排水溝の整備を待たなければなりません。排水が適切に行われないと、雪水が路上からあふれ出て、隣接する建物、設備に被害を与えます。一方で、河川水の活用は、環境負荷の観点から優れた消雪方法の一つでもあります。

散水温度が低いだけでなく、比較的水温の高い地下水を利用しての消雪道路であっても、揚水ポンプや散水ノズルといった消雪パイプ機器の不具合のために散水量が部分的に減ってしまったり、かなり冷え込む気温低下になったり、日々の変化によって、路上の消雪にムラができ、十分な消雪ができないことは容易に想像できます。また、井戸からの地下水の取水が減るなどの自然環境、消雪パイプ機器の故障、損傷、老朽化などの設備環境の長期的な変化によって、消雪能力が少しずつ低下します。これらの状況は、只見町の町内に設置されている消雪パイプ一つ一つ地区ごとに異なります。



上/消雪パイプ設置道路
下/未設置道路

このようにお話しを続けますと、消雪パイプが嫌いになる方もいらっしゃると思います。しかし、豪雪地帯の住居密集地、排雪場所の確保が難しい地区などに、消雪パイプは効果的です。また、写真は、同じ時刻の消雪パイプ設置道路とその近くの未設置道路です。消雪パイプが効果的であると観察できる資料です。

町民文芸



只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一 指導

春待たず蓄ふくらむ落の臺鉢に移して玄関に置く

吉津久仁子

押花を歌集にはさみ貸しくれし彼の人今は如何に老いしか

齊藤ちひろ

五十センチ降りし初雪軒下に残るを踏みて朝刊配る

五十嵐夏美

子が頼みしサンタ入り来て握手すれば極まりし孫つひに泣き出す

古川 英子

玄関の建替へ工事やうやくに終りし夕べ門松届く

皆川 恒子

師走にて宅急便と幾度もピンポン鳴れば表を確かむ

吉津 政枝

裏の田に落穂漁るや猿の群近づき行けど逃げ出しもせず

渡部ゆき子

送り来し荷物包みし広告を伸ばして町の品の値を見る

馬場 八智

生れ日に餅を負はされたどどしく歩む孫囲み目を離されず

目黒 富子

久々に手紙を書けば漢字など忘れ奥より辞書を持ち来る

渡部ヨリ子

入所の姉のクリスマスに来て声低く唄ひしことなき賛美歌うたふ

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

一月例会

目黒十一 指導

小春日や菅笠売りに峠越え

吉 児

雪吊のなべて張りたる雪の嵩

隆 堂

暮れなずむ本堂障子雪明り

邦 夫

シャッターを開けて新たな年と逢う

みぞるるやイルミネーション泣き

じゃくる

ぼんちよ着て黙って二人日向ぼこ

康 女

デパートの椅子にしばらく年の暮

ひとり居の畳に沈む寒さかな

リウコ

白雪の浅草山の稜線よ

薄凍や白鶴鴿の番い来る

樹氷する山に見惚れる朝かな

都

切り株に降っては消える師走雪

君偲び仰げり冬の赤城山

一 穂

仏壇のお茶を注げり室の花

婚礼の祝ぎ物並べ十二月

鏡台の軋む抽斗寒の入

恒 夫

虎落笛聞き書ききノート埋まりけり

寒禽の一羽水場を領しけり

終列車雪まとうままライト消す

洋 子

石路の花きつぱりと咲き露地の明け

アツ子

冬日差す手元暖か厨事

送る荷に一枝添えし実南天

郁 子

北風の去るや枝葉の大仰に

存分に雪にまみれて歩を進む

礼

笑顔とはかくも麗し雪明

凍み餅を搗けりもっとも寒き日に

一 灯

瘦せた太陽いまくれかかる師走かな

邦 男

母になる事の喜び針供養

人生の模様さまさま冬木の芽

笑 羊

正月やフランス風の子の料理



町保健福祉課から

福祉灯油緊急助成事業

積雪寒冷地に暮らす世帯の安心実現のため、また低所得世帯等に対する生活支援緊急対策として、町では高齢者世帯等に対する暖房用灯油購入費の助成をおこなうことになりました。

65歳以上の高齢者のみで構成される非課税世帯や重度障がい者等の非課税世帯に、一世帯あたり5千円分の灯油受給券を配布します。灯油受給券の配布を受けた方は、町が指定した町内の指定事業所で、3月末までの間に灯油と交換していただくこととなります。灯油受給券が使える町内指定事業者は、次の通りです。

- ・只見郵便運送(只見)
- ・(有)さかい商店(只見)
- ・マルヨシ商店(只見)
- ・J A会津みなみ只見給油所(福井)

電話番号

総務企画課	
総務班	☎82-5050
	☎82-5210
	☎82-5220
企画班	☎82-5110
町民生活課	☎82-5100
税務班	
町民班	
保健福祉課	
保健班	☎84-7005
福祉班	☎84-7010
産業振興課	
農林班	☎82-5230
交流推進班	☎82-5240
環境整備課	
地域整備班	☎82-5270
生活環境班	☎82-5280
会計室	☎82-8120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所(歯科)	☎84-2221
訪問看護ステーション	☎84-2612
	☎84-2130
こぶし苑	☎84-2101
保健福祉センター	☎84-7005
只見地区センター	☎82-2141
朝日地区センター	☎84-2111
明和地区センター	☎86-2111

税務署から

申告は正しくお早め!

- ・(有)倉田屋(黒谷)
 - ・菊地商店(梁取)
 - ・南会商事(株)(大倉)
- ▼問い合わせ 保健福祉課 ☎84-7010

平成20年分の所得税の確定申告受付は、2月16日(月)から3月16日(月)まで、消費税および地方消費税(個人事業者)は3月31日(火)までです。※税務署の閉庁日(土・日・祝日等)は、税務署では相談および申告書の受付はおこなっておりません。

申告書は、郵便または信書便による送付または税務署の時間外收受箱への投函により提出することができます。

◎あなたの確定申告をサポートします

国税庁では、給与所得者の皆様に対して、確定申告をおこな

法務局から

オンライン申請をご利用ください

「住宅取得控除」等の確定申告に登記事項証明書が必要とされる方は、インターネットを利用したオンライン申請をされるとお得です。

自宅や会社等のパソコンからインターネットを利用してオンライン申請をされると、法務局の窓口へ出向く手間がかからないのはもちろんですが、登記事項証明書1通当たりの手数料「1,000円」が「700円」に割引されます。

請求のあった証明書は、手数料が納付されたことを確認後、法務局からご自宅(または会社等)へ郵送(郵送料は法務局負担)いたします。

詳しい手続きにつきましては、法務省ホームページ(<http://sh.insei.moj.go.jp/>)をご覧ください。

今月の納期

2月25日までに納めましょう

水道使用料(4期)
農集排使用料(2月分)

くか、福島地方法務局登記部門 ☎024-534-2045

へお問い合わせください。

運輸支局から

登録・検査の手続きはお早めに

自動車の登録・検査手続きは、毎年3月に集中し、窓口や車検場が大変混雑します。

名義変更や住所変更、廃車、車検などの手続きは2月中に行うなど、できるだけ早めに済ませていただくようお願いいたします。

- ▼問い合わせ 東北運輸局福島運輸支局 ☎050-5540-2015 (登録関係)、024-546-0342 (検査関係)



薔椿 (ツバキ科/ツバキ属)

会津短大から

履修生・研究生募集

会津大学短期大学部では、次のとおり平成21年度科目等履修生及び研究生を募集しています。

▼履修または研究内容 産業情報（経営・デザイン）、食物栄養、社会福祉、教養基礎に關する科目または内容

▼期間 履修生の履修期間は科目により半年または1年。研究生の研究期間は1年以内。

▼募集人員 若干名

▼受付期間 3月2日（月）～6日（金）※6日の消印有効

▼選考方法 科目等履修生は書類選考および面接。研究生は書類審査。

▼科目等履修生の選考日時 3月11日（水）午前10時から本学にておこないます。

▼問い合わせ 会津大学短期大学部事務室 ☎0242-3712301

森林管理局から

国有林モニター募集

平成21年度国有林モニターを募集しています。

募集人員は70名で、依頼期間は平成21年4月から平成22年3月までです。

期間中、国有林に関するアンケートにお答えいただくほか、

国有林の管理経営に対する意見や提言をお伺いしています。

応募資格は、国会および地方議会の議員、地方公共団体の長および常勤の国家公務員並びに現在または過去に国有林モニターの経験がある方を除く関東森林管理局管内居住の成人の方です。（国有林OB、業界関係者、森林・林業担当の自治体職員、国有林に陳情等の活動をおこなわれた方と既に国有林についてご承知の方々におかれましては、お断りさせていただきますことがあります。）

国有林モニターになっていた方には、国有林の広報誌やイベント情報などを定期的に送付させていただきます。

希望者は郵便はがきにて氏名（ふりがな）、性別、生年月日、年齢、職業、住所（郵便番号）、電話番号、国有林モニターを知ったきっかけ、応募の理由（100字程度）を記載して、平成21年2月25日（水）（当日必着）までに、〒371-8508

群馬県前橋市岩神町4-16-25、関東森林管理局国有林モニター担当者（企画調整室内）宛に送付してください。

なお、選定結果は平成21年3月中旬に依頼状の発送をもってお知らせいたします。応募者多数の場合には抽選による選定をさせていただきます。

町長室日誌

〈 1 月 分 〉

- 5日 仕事始めの式（南会津地方広域市町村圏組合消防署只見出張所、只見町役場、外）平成21年只見町新年交歓会
- 6日 民生児童委員委嘱状交付式、南会津地方町村会、地元建設業の発展について要望活動、年始知事懇談会
- 7日 只見川ライン町村長県知事要望活動、新聞社訪問（雪まつり）
- 8日 県庁各課等年賀・就任挨拶
- 9日 南会津郡内町村・県出先機関等及び県立南会津病院等年賀・就任挨拶
- 11日 只見町消防団出初め式
- 13日 庁議、社会福祉法人南会津会理事会、南会津地方広域市町村圏組合第1回管理者会、会津総合開発協議会南会津地方部会
- 14日 福島県立医科大学訪問
- 15日 商工会役員研修会講師
- 19日 政策検討、教育関係者懇談会
- 20日 政策検討、甲子道路の供用による新たな交流・地域連携を考える地域活性化委員会
- 21日 湯ら里役員懇談会
- 22日 政策検討、会津総合開発協議会役員会
- 23日 政策検討、只見町退職者連盟総会、只見町土地改良区第2回理事会、町長を囲む観光振興懇談会
- 24日 只見町青少年健全育成主張大会・同標語表彰式
- 26日 全国治水砂防協会東北地区協議会臨時総会
- 27日 県立南会津病院長と協議懇談
- 28日 只見ふるさとの雪まつり実行委員会、会津総合開発協議会臨時総会、福島県安全で安心な県づくりの推進に関する条例説明会、東邦只見親和会新年会
- 31日 渡部あつし代議士「新春のつどい」

南会津警察署から

侵入盗や車上狙いなどが発生しております。ドアロックの徹底や、車を離れる際には車内に貴重品を放置しない等を厳守し、被害に遭わないようにしましょう。

路面凍結時のスリップによる

せていただきますとともに、選定結果に対する個別の問い合わせにはお答えできませんので、予めご了承ください。

▼問い合わせ 関東森林管理局企画調整室 ☎027-2101150

2月は

「省エネルギー月間」です

国では、毎年2月を「省エネルギー月間」と定め、省エネルギーの意識啓発をはかっています。

限りあるエネルギー資源を大切にするとともに、地球温暖化

交通事故が発生しています。スキー客などにより、管内の交通量が増加しております。運転の際には車間距離を十分に保ち、路面状況に応じた運転に心掛け、交通事故に遭わないようにしましょう。

を防止するため、私たち一人ひとりが、エネルギーを大切に使うよう心掛けましょう。

2月
おねがい
冬の室内温度は、
20℃以下の設定で



町民の消息

(1月1日～1月31日届出分・敬称略)

■お誕生おめでとうございます

梁取 あかり (女/伸行・梨恵) 小林
 馬場 由麻 (女/英弥・里香) 黒谷
 渡部 仁奈 (女/智和・沙織) 小川
 増田 楽 (男/良・美奈) 只見

■ご結婚おめでとうございます

二軒在家 三瓶 和人 南会津町 渡部 未来

■おくやみ申し上げます

柳林 新 84才 黒谷
 酒井 陽一 80才 長浜
 酒井 榮一郎 84才 黒沢
 渡部 キミコ 94才 長浜
 金子 富夫 77才 小林
 酒井 静江 98才 只見

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成21年1月1日現在

人口 5,091 (-7)
 男 2,427 (-5)
 女 2,664 (-2)
 世帯数 1,897 (-2)
 高齢化率 41.1%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

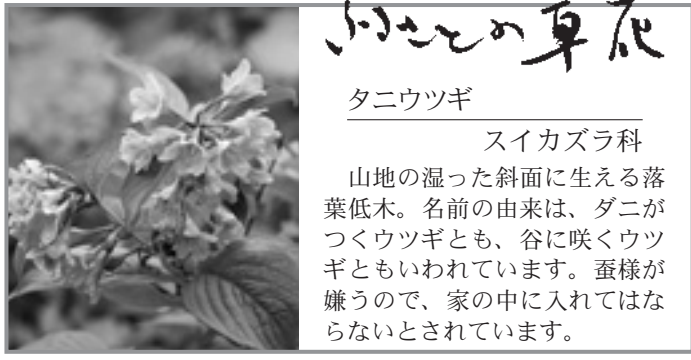
転入 3 転出 1 出生 0 死亡 9

今月の表紙



節分豆まき。黒谷町の子どもたちは、集落の家々を回り、豆を拾う。かつて多くの集落でこのなわれていた風習。「豆ひろわせでけやれ」「こっちにまっきゃれ」の元気な声に鬼も厄も退散。

あ と が き
 ▽今年は今のは除雪。苦
 情がポツポツ舞い込む。雪
 うしてあそこの道路は悪路
 いで、こっこの道路は悪路
 なのかなど……。道路は悪路
 か町業者か……。道路は悪路
 が始まる。▽みんな懸命に
 働いている。降り続ける雪
 を除雪するため寝ないで処
 理してある。間に合わないこ
 とだっても、間に合わないこ
 動かないほどの道車が積
 に遭わないと今の快適さ
 は分からない。



ふたりの草花

タニウツギ

スイカズラ科

山地の湿った斜面に生える落葉低木。名前の由来は、ダニがつくウツギとも、谷に咲くウツギともいわれています。蚕様が嫌うので、家の中に入れてはならないとされています。

まちづくり推進員 若林奈津子

朝日地区センター
 図書室 ☎84-2059

おすすめ新着図書

★奇跡のリンゴ「絶対不可能」を覆した農家・木村秋則の記録

石川拓治/著 (幻冬舎)



昨年7月に出版された男の感動ノンフィクションです。

周囲の農園主から害虫の巣窟と言われ、実もならず収入もなくなり極貧生活を経て、絶対に不可能とされてきた無農薬でのリンゴの栽培を成し遂げた木村秋則さんの長く壮絶な闘いの記録です。

NHKで放送して視聴者から大反響を受けたドキュメンタリー番組が再編集されて出版されました。多くの人に読んでもらいたい本です。

★この世でいちばん大事な「カネ」の話

西原理恵子/著 (理論社)



「いけちゃんとはく」や「まいにち母さん」などで人気の漫画家西原理恵子さんが、人生に必要で不可欠な「お金」にまつわるすべてを語ります。

「カネを稼ぐことは自由を手に入れること」「カネを失うことで見えてくるもの」など、西原流のお金道は、ココロとカラダにぴりっと効きます。お金そのものだけでなく、人間としての生きかたや価値観も考えさせられる本だと思います。読みやすい本ですのでぜひ読んでみてください。

★図書室に関する要望や購入図書の希望など、お気軽にお寄せ下さい。

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

つらつ



※この広報紙は再生紙を使用しています

屋根の雪が溶けて水になり滴り氷柱となる。透き通った氷を思わずはおぼりたくなるのは、子どもだけではない。今年は雪が少ない分、凍てを感じることも多い。1月28日撮影。カナツクリは方言。

イベントカレンダー

2月
● 21、22日(土・日)
「第10回出逢いふれあいフェスタ」

3月
● 7、8日(土・日)
「奥会津雪フェスタ〜只見」
・・・只見スキー場

▼ 「只見町まちなか散策マップ」
3月中旬より配布予定。ご希望の方はJ只見駅へお立ち寄りください。
▼ 問い合わせ
只見町観光まちづくり協会

☎ 82-5250
営業時間 午前8時半〜午後6時



※環境にやさしい大豆インクを使用しています